

新旧対照表

変 更 後	変 更 前
<p>1～2 (略)</p> <p>3. 地域再生計画の区域 宮崎市、日向市及び延岡市並びに宮崎県児湯郡都農町及び新富町の全域（平岩港及び古江港並びに都農漁港及び富田漁港）</p> <p>4. 地域再生計画の目標 平岩港及び古江港並びに都農漁港及び富田漁港が所在する宮崎県の日向市、延岡市と都農町、新富町は、県の北部で隣接しており、日向市などではプロ野球のキャンプが行われるなど、1年を通しての平均気温が17.4℃、年間日照時間が2,099時間と非常に温暖な気候の土地である。日向市、延岡市及び都農町、新富町は、東に太平洋日向灘を臨み、西側の内陸部は九州山地に接している。また、大小の半島がリアス式海岸の態をなしている沿岸部では黒潮の暖流の影響もあり、古くからイワシ、アジ、ブリ、フグ、ウニ等を対象とした定置網漁業、はえなわ、刺し網が営まれており、富田漁港は、機船船曳網漁業により宮崎ブランドとして全国で有名なチリメンの重要な水揚げ港であるなど、水産業が基幹産業となっている。また、当該地域には、世界で最もエキサイティングなワイン100選である都農ワイナリーを始め、日本最大級の柱状節理である馬ヶ瀬、渚100選の小倉ヶ浜、日本の海水浴場88選の伊勢ヶ浜など様々な観光資源があり、日向市幸脇地区においては「サンパーク日向」の施設内に温泉が湧出し、神武天皇東征御船出の地の由来もあり、「お船出の湯」として市民はもとより近隣市町村からもたくさんの利用客が訪れ、賑わっているほか、近隣にある「道の駅日向」では物産館でふるさとの海の幸の販売も行うなど、最近では観光業にも力を入れはじめている。 当該地域の港湾及び漁港は、地域において産業上重要な役割を果たしていることから、これらにおける課題を一体的に解消し、機能強化を図っていくことが急務となっている。</p>	<p>1～2 (略)</p> <p>3. 地域再生計画の区域 宮崎市及び日向市並びに宮崎県児湯郡都農町及び新富町の全域</p> <p>4. 地域再生計画の目標 平岩港及び都農漁港、富田漁港が所在する宮崎県の日向市と都農町、新富町は、県の北部で隣接しており、日向市などではプロ野球のキャンプが行われるなど、1年を通しての平均気温が17.4℃、年間日照時間が2,099時間と非常に温暖な気候の土地である。日向市及び都農町、新富町では、東に太平洋日向灘を望み、西側の内陸部は九州山地に接しているとともに、大小の半島がリアス式海岸の態をなしている海岸線では黒潮の暖流の影響もあり、古くからイワシ、アジ、ブリ、フグ、ウニ等を対象とした定置網漁業、はえなわ、刺し網が営まれている。富田漁港においては、機船船曳網漁業により宮崎ブランドとして全国で有名なチリメンの重要な水揚げ港であり、水産業が基幹産業となっている。また、世界で最もエキサイティングなワイン100選である都農ワイナリーを始め、日本最大級の柱状節理である馬ヶ瀬、渚100選の小倉ヶ浜、日本の海水浴場88選の伊勢ヶ浜など様々な観光資源があり、日向市幸脇地区においては「サンパーク日向」の施設内に温泉が湧出し、神武天皇東征御船出の地の由来もあり、「お船出の湯」として市民はもとより近隣市町村からもたくさんの利用客が訪れ、賑わっているほか、近隣にある「道の駅日向」では物産館でふるさとの海の幸の販売も行うなど、最近では観光業にも力を入れはじめている。</p>

平岩港は、小倉ヶ浜南端に位置しており、小型漁船の基地として利用されているほか、隣接する小倉ヶ浜を中心としたこの一帯は、海水浴・磯遊び・サーフィンなどの海洋性レクリエーションが盛んであり、若者を中心として賑わっている。また、小倉ヶ浜は、全国的に有名な「ハマグリ基石」の材料であるチョウセンハマグリの産地でもある。漁船は3トンクラスの小型船を中心に現在35隻係留されているが、台風等の荒天時には隣接する小倉ヶ浜海岸からの砂が港内へ堆砂し、埋塞して航行が出来なくなるため、近隣の重要港湾である細島港への避難を余儀なくされている。

古江港は、県北の延岡市北浦町に所在し、古くから付近住民の生活・生産・流通の場として栄え、重要な役割を果たしている。しかしながら、養殖餌ストックの冷凍冷蔵庫を擁していることから、餌を水揚げする巻き網運搬船と餌を積み込む養殖漁船が輻輳する状況となっており支障を来している。特にピーク時には、物揚場の利用待ち時間が約2時間にも上ることから、鮮度が問題となる巻き網運搬船については、やむを得ず近隣の北浦漁港に水揚げした後、古江港の冷凍冷蔵庫まで陸送しており、時間・コストの面で非常に非効率となっている。また、北浦漁港についても県内有数の水産基盤であることから、他港からの移動を解消し、水揚げ機能の強化を図ることが必要となっている。こうしたことから、古江港の物揚場を整備することにより、両港の水揚げ機能の強化を図る必要がある。

都農漁港は漁獲高が186トン、利用する漁業者が119人という地域に密着した漁港である。漁船は3トンから5トンクラスの小型船を中心に現在168隻係留されているが、港内の静穏度が確保されていないため、風速が25 m/s、波高が2.5 m以上となる暴風時には、平岩港と同様に近隣の細島港への避難を余儀なくされている。

富田漁港は漁獲高が544トン、利用する漁業者が68人という地域に密着した漁港である。当漁港は、一ツ瀬川河口部の両岸に施設を有する漁港であるが、航路の安全性に欠け、台風時は避難を余儀なくされる等、利便性に乏しく、航路の安定と河川や波浪と漂砂

平岩港は、小倉ヶ浜南端に位置しており、小型漁船の基地として利用されているほか、隣接する小倉ヶ浜を中心としたこの一帯は、海水浴・磯遊び・サーフィンなどの海洋性レクリエーションが盛んであり、若者を中心として賑わっている。また、小倉ヶ浜は、全国的に有名な「ハマグリ基石」の材料であるチョウセンハマグリの産地でもある。漁船は3トンクラスの小型船を中心に現在35隻係留されているが、台風等の荒天時には隣接する小倉ヶ浜海岸からの砂が港内へ堆砂し、埋塞して航行が出来なくなるため、近隣の重要港湾である細島港への避難を余儀なくされている。

都農漁港は漁獲高が186トン、利用する漁業者が119人という地域に密着した漁港である。漁船は3トンから5トンクラスの小型船を中心に現在168隻係留されているが、港内の静穏度が確保されていないため、風速が25 m/s、波高が2.5 m以上となる暴風時には、平岩港と同様に近隣の細島港への避難を余儀なくされている。

漁港施設において、台風等の激浪により防波堤の老朽化部分が損壊する恐れがあり、静穏度の確保と漁船航行の安全を確保する必要がある。また、泊地面積が狭いため、船回し等に作業時間を要しており、荷下ろし、荷捌きに支障をきたしている。

富田漁港は漁獲高が544トン、利用する漁業者が68人という地域に密着した漁港である。当漁港は、一ツ瀬川河口部の両岸に施設を有する漁港であるが、航路の安全性に欠け、台風時は避難を余儀なくされる等、利便性に乏しく、航路の安定と河川や波浪と漂砂

による維持浚渫の軽減が急務である。

更に、都農漁港及び富田漁港においては、台風等の激浪により防波堤の老朽化部分が損壊する恐れがあり、静穏度の確保と漁船航行の安全を確保する必要があるとともに、泊地面積が狭いために船回し等に作業時間を要することから、荷下ろし・荷捌きに支障を来している。

また、平岩港及び都農漁港、富田漁港からの避難先である細島港等は、隣接しているとはいえ離れており、一度細島港に避難した漁船が、出漁準備のためそれぞれの港に戻り、再び出漁するためには3日間を要することとなり、その分出漁機会が減少することとなる。一方、細島港等においても平岩港及び都農漁港、富田漁港の漁船が避難してくるために、避難している間は、東九州における流通拠点として、また、日向・宮崎地域を中心とする背後圏の産業を支える物流拠点としての機能が減少することとなる。このように現状では、台風などの暴風時に平岩港及び都農漁港、富田漁港の漁船が細島港等に避難することにより、各港の利用に支障を来している。

以上より、地域に密着した港づくりを推進するためには、日向・延岡市の物流産業の拠点である細島港の機能を充実させ利用可能日数の増加を図る一方で、平岩港及び古江港並びに都農漁港及び富田漁港の暴風時の静穏度や漁船の安全航行を確保すること及び係留施設を整備することにより、出漁機会の増加を図ることが重要である。そのため、平岩港において防砂堤・防波堤を整備するのと同時期に、古江港において物揚場・航路・泊地の整備、都農漁港において航路・泊地の整備、岸壁の延伸及び防波堤改良、富田漁港において導流堤・航路の整備を行うこととする。

更に、水産業を中心とした地域の活性化を図るために、上記の施設整備と併せて、近隣のサンパーク日向の「お舟出の湯」温泉館や道の駅「日向」物産館での海の幸での販売などを推進し、近隣市町村からの利用客の増加を図る。

- (目標 1) 都農漁港の労働環境改善と機能向上  
(出漁日数を増加させる 200 日→ 210 日)  
(泊地面積 12,000 m<sup>2</sup>→ 19,000 m<sup>2</sup>)

- (目標 2) 平岩港の防砂堤の整備により泊地浚渫コストの縮減を図る。

による維持浚渫の軽減が急務である。

平岩港及び都農漁港、富田漁港から避難先である細島港等は、隣接しているとはいえ離れており、一度細島港に避難した漁船が、出漁準備のためそれぞれの港に戻り、再び出漁するためには3日要することとなり、その分出漁機会が減少することとなる。また、細島港等においても平岩港及び都農漁港、富田漁港の漁船が避難してくるために、避難している間は、東九州における流通拠点として、また、日向・宮崎地域を中心とする背後圏の産業を支える物流拠点としての機能が減少することとなる。このように現状では、台風などの暴風時に平岩港及び都農漁港、富田漁港の漁船が細島港等に避難することにより、各港の利用に支障を来している。

以上より、地域に密着した港づくりとするためには、日向・延岡市の物流産業の拠点である細島港の機能を充実させる一方で、平岩港と都農漁港、富田漁港の暴風時の静穏度や漁船の安全航行を確保することにより、出漁機会の増加を図るとともに、細島港の利用可能日数の増加を図ることが重要である。そのため、平岩港において防砂堤を整備するのと同時期に、都農漁港において航路、泊地の整備、岸壁の延伸、防波堤改良を行うと共に富田漁港において、導流堤の整備、航路の整備を行うこととする。

更に、当該地域を水産業を中心として地域に密着した地域とするために、上記の施設整備と併せて、近隣のサンパーク日向の「お舟出の湯」温泉館や道の駅「日向」物産館での海の幸での販売などを活用し、近隣市町村からの利用客の増加を図る。

- (目標 1) 都農漁港の労働環境改善と機能向上  
(出漁日数を増加させる 200 日→ 210 日)  
(泊地面積 12,000 m<sup>2</sup>→ 19,000 m<sup>2</sup>)

- (目標 2) 平岩港の防砂堤の整備により泊地浚渫コストの縮減を図る。

(年間浚渫量 12,000m<sup>3</sup> → 約 4,000m<sup>3</sup>)

(目標 3) 観光施設「サンパーク日向」の利用者の増加  
(年間 350,000 人 → 380,000 人)

(目標 4) 富田漁港の航路の安全性の確保  
(出漁日数を増加させる 200 日 → 220 日)

(目標 5) 古江港古江地区の係留施設充足率の向上を図る。  
( 8 5 % → 9 4 % )

## 5. 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

平岩港及び古江港並びに都農漁港及び富田漁港において、防波堤、物揚場等の整備を行い、港内静穏度及び航路の安全確保、水揚げの効率化等を図る。また、細島港は、日向・延岡市を背後圏とする、諸物資の円滑な流通を確保するための拠点として十分に機能が発揮できるように関連事業で防波堤の整備を行う。

併せて、水産物の販売などを積極的に実施し、地域に密着した港づくりを推進する。

### 5-2 法第五章の特別の措置を適用して行う事業

港整備交付金を活用する事業

整備箇所等は、別添の整備箇所を示した図面による。

[施設の種類と事業主体]

- ・ 港湾施設 (平岩港、古江港) 宮崎県
- ・ 漁港施設 (都農漁港、富田漁港) 宮崎県

[整備量]

- ・ 港湾施設・・・防砂堤、防波堤、物揚場、航路、泊地
- ・ 漁港施設・・・泊地、航路、防波堤、岸壁、導流堤

[事業期間]

- ・ 港湾施設 平成 17 年度～平成 21 年度
- ・ 漁港施設 平成 18 年度～平成 21 年度

(年間浚渫量 12,000m<sup>3</sup> → 約 4,000m<sup>3</sup>)

(目標 3) 観光施設「サンパーク日向」の利用者の増加  
(年間 350,000 人 → 380,000 人)

(目標 4) 富田漁港の航路の安全性の確保  
(出漁日数を増加させる 200 日 → 220 日)

(目標 5) 古江港古江地区の係留施設充足率の向上を図る。  
( 8 5 % → 9 4 % )

## 5. 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

平岩港及び都農漁港、富田漁港では、防砂堤、防波堤及び泊地、防波堤改良、岸壁、導流堤の整備を行い、台風時の細島港への避難を解消し、港内静穏度、岸壁の延伸及び航路の安全を確保し、出漁機会の増加を図る。また、細島港は、日向・延岡市を背後圏とする、諸物資の円滑な流通を確保するための拠点として十分に機能が発揮できるように関連事業で防波堤の整備を行う。

また、水産物の販売などを積極的に実施し、地域に密着した港づくりを推進する。

### 5-2 法第四章の特別の措置を適用して行う事業

港整備交付金を活用する事業

整備箇所等は、別添の整備箇所を示した図面による。

[施設の種類と事業主体]

- ・ 港湾施設 (平岩港) 宮崎県
- ・ 漁港施設 (都農漁港、富田漁港) 宮崎県

[整備量]

- ・ 港湾施設・・・防砂堤、防波堤
- ・ 漁港施設・・・泊地、航路、防波堤、岸壁、導流堤

[事業期間]

- ・ 港湾施設 平成 17 年度～平成 19 年度
- ・ 漁港施設 平成 18 年度～平成 21 年度

[港整備交付金の総事業費]

・総事業費	<u>888,600 千円</u>	
港湾施設	<u>420,000 千円</u>	(うち交付金 <u>168,000 千円</u> )
漁港施設	<u>468,600 千円</u>	(うち交付金 <u>234,300 千円</u> )

(以下略)

[港整備交付金の総事業費]

・総事業費	<u>600,000 千円</u>	
港湾施設	<u>250,000 千円</u>	(うち交付金 <u>100,000 千円</u> )
漁港施設	<u>350,000 千円</u>	(うち交付金 <u>175,000 千円</u> )

(以下略)